

平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会 議事録

会議名称	平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会
開催日時	平成 28 年 2 月 18 日（木）午後 2 時から 3 時 30 分まで
開催場所	門真市立文化会館 3 階 音楽室
出席者	（委員） 朝倉会長、清澤副会長、登委員、早川委員 【出席人数 4 人／全 5 人中】 （事務局） 柴田生涯学習部長、牧菌生涯学習課長、東田生涯学習課長補佐、藤田生涯学習課副参事、空本生涯学習課係員
議題 （内容）	①平成 27 年度事業報告 ②門真市文化芸術振興基本方針の見直しについて
傍聴者数	1 人
担当部署	（担当課名） 生涯学習部 生涯学習課 （電 話） 06-6902-7197（直通）

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、審議会を開催したいと存じます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をいたします。まず、平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会次第、次に資料 1、平成 27 年度事業報告について、その他チラシ 4 枚、パンフレット 1 部です。次に資料 2、門真市文化芸術振興基本方針 基本施策等推進状況一覧表です。最後に資料 3、門真市文化芸術振興審議会スケジュール（案）です。以上でございます。資料に不足はございませんか。

なお、本日、木ノ下委員につきましては、ご欠席の連絡をいただいております。

それでは、以降の進行を朝倉会長にお願いいたしたいと存じます。よろしくお願いたします。

【朝倉会長】

それでは、平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会を開催いたします。

改めてお久しぶりです。実りあるものにしていきたいと思います。どうかよろしくお願いたします。

それでは、本日の案件に移らせていただきます。

まず、案件 1 「平成 27 年度事業報告」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、案件 1 について、事務局よりご報告いたします。資料 1 と資料 2 を併せてご覧ください。これから行う事業報告につきましては、文化芸術振興基本方針で事業の進捗状況の管理も審議会で行うことから、主として行われた事業や新しく取り組まれた事業をご紹介します。

まず、市の事業として「まちかど・まちなかコンサート」について、ご報告いたします。お手元にあるチラシをご覧ください。

「発表・鑑賞・体験の機会づくり」として、公共空間の活用を図るべく、平成 26 年度からルミエールホールの指定管理者であるトイボックスに委託し、今年度は市内の様々な場所で試験的に 5 回開催することで、まちかど・まちなかコンサートの取り組みやその趣旨をお知らせし、公共空間の活用の可能性を示すことに努めております。これまでに打越のトップワールド駐車場前や大和田南商店会、新橋公園で、ホルンやピアノ、フルート、ヴァイオリンによる演奏をしました。残り 2 回を 3 月 6 日（日）に砂子水路でピアノによる弾き語り、3 月 21 日（祝・月）にルミエールホールでホルン、ヴァイオリン、ピアノ弾き語り、歌によるコンサートの開催を予定しております。今後につきましては、来年度もトイボックスに委託し、5 回開催するとともに、機会が得られましたら、市民が主体となった地域でのコンサートの支援などを行いたいと考えております。

次に、ルミエールホールの事業について、これまでも市文化祭や音楽アウトリーチなどを継続的に行われてきましたが、今年度から新しく取り組みを始めました「ルミエールジュニアコーラス」や今までに開催されていた手作り市をリニューアルした「カザレ中塚」の 2 つをご報告いたします。

まず、「ルミエールジュニアコーラス」について、ご説明します。

ジュニアコーラスは、市内在住・在学の小学生から高校生を対象とした合唱団であり、ルミエールホールで 6 月に行っているコーラスフェスティバルや市文化祭などに出演しております。この事業を始めた理由は、元々コーラスフェスティバルの出演者に学生などの若年層が少なかったことから、市内にコーラスの裾野を広げるため、5 年前に門真市小中学生ワークショップ合唱団として発足し、現在の形になりました。

現在参加している人数は、小学 3 年生から 5 年生までの 8 人です。指導されているのは、一昨年度に門真フェイバリットアーティストに選ばれた声楽家の下仮屋美穂さんで、子どもたちにコーラスを楽しみ感じてもらえるようにジュニアコーラスでしか歌えないような、幅広いジャンルの中から選曲を工夫しているそうです。

続きまして、カザレ中塚について、ご説明します。皆さんのお手元に配付しておりますチラシをご覧ください。今までは、「門真手作り市 with P.A.D」として開催されていましたが、今年度から、作家や音楽アーティスト、観客がトイボックスと一緒に盛り上げようという機運で新しい形の手作り市としてリニューアルし、2 月 21 日（日）に中塚荘にて開催されます。作家による出展だけではなく、雛飾り作りや缶バッジ作りなどのワークショップ、音楽アーティストによる生ライブを取り入れています。また、子育て中の家族が気軽に来られるように、2 時間まで無料の一時保育があります。

最後に、第九コンサート事業について、ご報告いたします。みなさんのお手元にあるパンフレットをご覧ください。市制施行 50 周年記念として市などが開催した第九コンサートの想いを引き継ぎ、昨年 4 月に市民自らの手によって、実行委員会を立ち上げられました。

先月 1 月 17 日（日）に「音楽のあふれる街へ みんなでつくる門真の第九 2016」と題する公演が行われました。107 名の市民合唱団が交響曲第九番第四楽章を合唱しました。また、856 名の観客が第九の主題部分や「ふるさと」を合唱団とともに歌いました。

アンケートでは、毎年来たい、合唱団として参加してみたい、みんなで歌うことがとて

もよかったと大変好評でした。今後につきましては、引きつづき市から交付金を交付するとともに、市からの補助がなくとも開催できるよう自立に向けた支援に努め、門真市の顔となるようなコンサートになっていただきたいと思いますと考えております。

以上、案件 1 についての説明を終わります。

【朝倉会長】

ありがとうございました。ただ今、事務局から説明されました内容について、ご質問やご意見はありませんか。

【清澤副会長】

ジュニアコーラスは 8 名と聞きましたが、支援体制はどのようになっていますか。

【事務局】

ルミエールホールの指定管理者のトイボックスが自主事業として取り組んでおり、ジュニアコーラスとして文化祭やコーラスフェスティバルに出演するなどの活動をしています。

【清澤副会長】

市内の少年少女合唱団との連携は取っていないのですか。

【事務局】

以前は少年少女合唱団があったのですが、長らく休会されています。これがそれに代わるものとトイボックスは考えています。

【早川委員】

コーラスとしては人数が少ないので、もっと増えればいいなと思います。ただ、小中学生ですと、学業の中にコーラスがあるのではと思います。そちらとの連携をしながら、学校では体育会系で、帰ったら文化的コーラスという風になれば素敵だと思います。

【事務局】

立ち上げてからの年数が浅いためか、まだ浸透していないものと思われます。これから期待したいところです。

【早川委員】

そうですね。多くの人に参加していただければいいなと思います。

【清澤副会長】

まちかど・まちなかコンサートの回数は決まっていますか。

【事務局】

平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会 議事録

トイボックスに委託している事業でして、予算の範囲内でできるかぎりやろうということで、年 5 回としております。

【清澤副会長】

どれくらいの方が来ているとかの人数などは分かるのですか。

【事務局】

第 1 回目の 10 月 17 日実施分には 70 名ほどの方が来ております。11 月にも 70 名ほどで、通りすがりの方もおられたので、なかなか人数の測定が難しいですが、事業主旨としてはそのような部分も想定をしているところでもあります。

【清澤副会長】

第九コンサートでは、ホールがいっぱいになったかと思われませんが。

【事務局】

856 人という公表がされています。

【清澤副会長】

まちかど・まちなかコンサートは市内向けの発信ですが、第九コンサートなどは規模も大きいし、市外の方も参加しているかと思うのですが、報道に取り上げられたことはありましたか。

【事務局】

第九コンサートに関する報道につきましては、開催前に大阪日日新聞に取り上げられていました。

【清澤副会長】

広報にも出ていましたね。

【朝倉会長】

第九コンサートの合唱団の方は、どのようにして集まれたのですか。

【事務局】

一昨年度に一度やっておりますので、その時の参加者が一定数いらっしゃいます。3 割ぐらいでしょうか。逆に言うと、ほとんど前回の参加者という状況ではなかったという印象をもっています。他にどういう方々が入っておられるかということ、市内でコーラスのサークル活動をしている方々が呼びかけに応じていただき、友達を誘って来てくれているのが多いです。一定数は初めてという方もおり、中にはコーラスも初めてという方もいまし

た。

【朝倉会長】

広報、募集の形はどのような方法でしたか。

【事務局】

実行委員会がされたのは、広報やホームページ、フェイスブックで募集した他、市内の小・中学校の児童生徒全員にチラシを配付したと聞いています。また、それによって保護者にも伝わったとのこと。その他に、自治会の掲示板に協力いただき掲示板に掲示するなどして地域で目を留めていただいたと聞いております。

【朝倉会長】

ずいぶん頑張られたんですね。この方々は次回もやろうと考えているのでしょうか。

【事務局】

それぞれについて話を聞いたわけではないのですが、最後は盛り上がりを見せておりましたので、「次回もやりますよ」と言われれば、その方々も来られるのではないかと教育委員会としては期待しているところです。

【朝倉会長】

実行委員会の組織は残っているのですか。合唱団もその中に入っているのですか。

【事務局】

前回の合唱団でリーダー的な方も入っております。

【朝倉会長】

そういう形が一番望ましいですね。

【事務局】

新しく関わった方も実行委員会に加わっていくことを期待しています。

【清澤副会長】

前回もいただいたとおり、一覧表の内容は、基本方針を項目別にしてテーマを変えてと、上手くできていると思いますが、間隔があいた開催になるということもあり、3年中長期くらいでこういうことをやろうかという具体的な内容や、10年後にはここまでやろうというような目標があった方が評価しやすいのではないかと思います。実際には仕組みづくりが大事ですし、行政の方の調整やそれぞれの発表の場についても進んでいる施設や、構想だけのところがあります。テーマを出して、できれば数字での実現目標を持ち、進捗率を

確認し、施策内容については市の内部で具体的な策として打ち出していただき、どのようにやっていくかを整理していただければいいかと思います。

【事務局】

現時点では、ごく短期的な進捗状況を報告させていただいております。次の案件に絡みますが、見直しも含めまして、そのような評価を含めて議論をしていただきたいと思います。

ただ、芸術というものがどこまでいけば 100%なのかということが難しくなります。

【清澤副会長】

その辺はやはり具体的な目標がいます。例えば、文化振興局を作るとか文化振興交流課に教育委員会の一部を持ってきて、そこがどのくらい動いているかなどを確認するなど具体的な目標の数字を挙げていかないと評価ができないということになると思います。

【事務局】

一目で進捗が把握できることは難しいと思います。現在の色々な施策を見ていただきますと、音楽系の取り組みが充実しております、他の分野での文化芸術の進捗などを次の項目として設定したいと考えています。

【清澤副会長】

「歌声響く」という市のテーマがありますので、音楽が確かに大事なことかと思いますが、文化芸術というからには他のものもあります。市長の年頭挨拶にもありましたが、「住みたい」「住み続けたい」と選ばれるまちというと、音楽だけではないような気がします。各自治体などの文化活動を見ますと芸術祭などをしたり、外部の方を呼んだりするなどをしていますので、市の内部でのワーキンググループみたいところで、門真市としての具体的な文化行事を企画し、こういう場での意見を取り入れたらいいのではないかと思います。

【朝倉会長】

非常にいいご意見をいただいたと思います。何年度ということが記載されておれば進捗状況が分かり、具体的な目標があればどのように発展しているのかが分かるかと思っています。

確かに文化は動員数のみで測られるべきでないと思いますが、あえて動員数を目標に挙げ、回数を増やすとか、ジュニアコーラスを何年度には 40 人編成にするとかの形で良いと思うのですが。今、私が関係しています寝屋川市文化振興審議会の場合、予算がどれくらいについて、動員はこれだけだったという資料をいただいております。そうすると規模が分かりやすいし、目標に向かっての意見を言うことができます。将来的に基本方針を見直し

ていくということになると、具体的な話から外れてしまうことになるので、できるだけ細かい所に目標を作っていくってはどうでしょうか。

【清澤副会長】

情報の収集と発信というテーマを掲げて、やっぴこうという主旨は分かります。具体的な方法として、ホームページやツイッターでの発信、ムービーチャンネルの開設、情報誌の発行などを充実させて、地域沿線は元より近畿、大阪府下に広まるようになればいいかと思います。

【早川委員】

行政が関わると何かにつけて前面に公平性が出てくるのですね。文化的支援に関しては、中心を決められたら良いかと思います。門真市としての特徴を出し、「こういうまちだからこういう支援をしています」ということを広くアピールすることになればいいかと思います。文化芸術振興基本方針の中から 10 年の間に音楽を中心にしていますという姿勢が大事で、他を排除するのではなく、市民からの要望があれば取り組みも考えますとアピールすればよいと思います。例えば、堺市などは千利休の生まれ故郷であり、どこに行ってもお茶の雰囲気があります。門真市のそれはなんだろうか、どういうところに重点を置くかを市の施策として打ち出してもいいのではないかと思います。

【朝倉会長】

今の話に関連して、施設が今後こうなるとかの情報が入ってくると、それを拠点にしてこういうことをするとかのアイデアを出せると思います。参考ですが、寝屋川市には「鉢かづき伝説」があり、そのミュージカルを子どもたちが 2 日間行い、満席になっています。池田市の場合は「落語のまち池田」など、それぞれテーマを作り、それを打ち出しています。

【事務局】

門真市では、レンコンの話とか「カップ伝説」というものがあったりして、子どもにも馴染めるような要素もありますので、意見を伺うなどして今後検討していきたいと考えております。

【朝倉会長】

第九コンサートなどでもいいと思います。門真と言えこれといったものを考えていただきたいと思います。

【早川委員】

まちかど・まちなかコンサートは年に 5 回実施していますよね。きちんとお客さんもらっちゃって良いと思います。

【朝倉会長】

やる場所だとかで、市がリード、協力すると、道路の占有問題とか近隣の対策だとか可能性が広がります。民間だと難しい問題が多いのですが、そういう意味で積極的にやっていただくにはいいのではないかと思います。

【事務局】

この事業について、これまでルミエールホールと協議する中、アーティストの方の発表の場が少ないとか部屋の中でやると見ていただく層が限られている悩みとか、外でやろうと思うと許可権が難しいという話がありましたので、そういうところを変えていこうと、今、試験的に実施をしてこれからどういう形にして行こうかと試行錯誤しているところです。

【朝倉会長】

今おっしゃったように、音楽大学を出たけれど発表の場が少ないという方が多く、その方たちに機会を与えれば喜んでやると思いますし、そういう若い人たちの情熱と地域がぴったり合うと思います。商店街なども人を呼ぶから喜ぶと思います。

うちも京阪線のジャズフェスティバルの一環で土居の商店街でやりました。学生が町おこしをテーマにボランティア活動の研究部会があり、京都の南山城村を研究し、古民家を改修して拠点としてやっております。若い方をどんどん使って、地元の大学とかと協力してやられるのもいいかと思えます。

【清澤副会長】

ルミエールボックスという情報誌はすでにあるんですね。

【事務局】

はい、そうです。

【清澤副会長】

これを更に充実させていこうということですか。

【事務局】

ここに書いてあるのは、この 10 年の間に計画策定の後でこういうものが生まれましたということを書いてあります。

これは前々から出ていて、市内の文化事業状況が一目で分かり、タイムリーに伝えられるひとつの手段になっています。

最近ではウェブ広報も進んでおりますが、まだ紙ベースでの情報発信も必要で、市民プラザも紙ベースでの情報誌を作成して、それを支援しております。

【清澤副会長】

駅などにルミエールホールの個々の企画のチラシとルミエールボックスが置いてありますよね。ああいうところに市の行事やそれ以外の文化事業の内容が分かるようなものを置くなどをして、トイボックスと市が連携して充実させていくことがいいのではないのでしょうか。

【事務局】

その他にも、近隣では、モノレールの駅で文化会館のサークルが展示等をされており、うまくタイアップしてお互いの情報を発信できればいいと思います。4月から文化会館、公民館は指定管理者を導入しますので、その中で情報発信できるよう考えていきます。

【朝倉会長】

市内で活動されている方が、自由にチラシ等を置ける場所などはあるのですか。

【事務局】

今のところはありません。それぞれの施設でそれぞれの責任者が判断をして配置している状況です。

【朝倉会長】

判断はあるけど、頼めば配置できるということですか。

【事務局】

ほとんどのものに関しては、頼めば配置できるという状況です。

【清澤副会長】

以前、ルミエールホールの2階の情報コーナーを変えていくという話がありましたが、進んでいるのでしょうか。

【事務局】

今はチラシが自由に取れて、配置するときは会館の職員に渡しますが、許可があれば、そこに色々配置することができます。他に水槽やテーブル、ソファがあり、憩いの場になっています。

【朝倉会長】

色々な団体の催物のチラシがおいてある感じですね。

【朝倉会長】

どの市も文化振興をどうしようかと悩んでいるわけですが、市の担当部局同士の交流や審議会との交流をすることに意義があると思います。お互いの広域の特徴を持った考え方も必要かと思っています。

【清澤副会長】

広域連携がプログラムにもありますので、どんなことをしているのかを具体的に書かれていると分かりやすいですね。

【事務局】

利用者は色々な施設を使っておりますので、ひとつの市の中で収まらないものもあるため、施設間・行政間の連携も検討していかなければいけないと考えています。

【朝倉会長】

一番苦勞するのは、「何でそんな文化が必要ですか」と言われることで、自信を持って「必要です」と語れるようにならないかと思っています。私たちが勉強できる機会を審議会として提供していただければありがたいです。

【朝倉会長】

門真市は市の文化祭はないのですか。

【事務局】

市の文化祭はあります。それに加えて各施設のサークルが中心となり、「文化会館ふれあいまつり」や「公民館まつり」として、展示、発表の機会があります。

【早川委員】

ルミエールホールの稼働率はどうですか。

【事務局】

競争率が高く、頻繁に抽選が行われていますので、比較的高いと思われます。

【早川委員】

教室などが多いのですか。それとも発表会が多いのですか。

【事務局】

普段の練習を各施設で行い、発表会をルミエールホールで行うケースが多いです。

【早川委員】

すみ分けができてるわけですね。

文化度と街並みはすごく関連していると思います。街並みをつくるのは行政の課題になると思いますので、その辺りを考慮していただけたらなと思います。

【清澤副会長】

大きな視点で、例えば、ルミエールのジュニアコーラスも守口、門真、寝屋川の子どもを対象にするとか第九コンサートも大きなスケールで考えて、この日を「文化の日」という風にして、ロビーに書道や陶芸等を展示し、門真市の良さを市内外に分かるようなコンサートを行うようにすればいいかと思います。行政間での文化振興などのネットワークみたいなものはあるのですか。

【事務局】

今、大阪府立江之子島文化芸術創造センターというところで大阪府の研修が行われるようになり、そこで他市の職員と話をするなど最近活発になっています。ただ、毎回すべての自治体の職員が参加するわけではないため、広域連携も近くからスタートする必要があるかと思います。

【朝倉会長】

それでは、次の案件に移りたいと思います。案件 2 「門真市文化芸術振興基本方針の見直し」について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

それでは、案件 2 「門真市文化芸術振興基本方針の見直し」について、説明いたします。資料 3 をご覧ください。

平成 32 年 1 月で門真市文化芸術振興基本方針の策定から 10 年になります。このことについては、25 年度の審議会において、基本方針の中間見直しが検討されておりましたが、基本施策に掲げる施策をひとつでも多く実現していくことが重要であることから、策定から 10 年目となる 31 年度に見直しを行うとご審議いただきました。

それを踏まえて、大まかではありますが、平成 27 年度から平成 29 年度は事業報告や事例調査を、平成 30 年度は市民意識調査や課題整理を、平成 31 年度には見直すべき内容のご審議、平成 32 年 1 月に基本方針を改定するという流れで行いたいと思っております。

そこで、基本方針の見直しにあたって、参考にするために、最近の文化芸術の動向やこれから進められようとしていること、事例などがあればご紹介していただきたいと存じます。

以上、案件 2 について説明を終わります。

【朝倉会長】

それでは、最近の動向やこれからについて、情報をお持ちでしたら、お話をさせていただければと思います。

最近の本市における大きな動向をお教えいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】

本市の大きな動向ということで、ひとつは、生涯学習複合施設の建設を推進しています。この中に、ルミエールホールの小ホールよりも小規模なホールを設け、ルミエールホールとのすみ分けを考え、進めていきたいと思っております。

もうひとつは、指定管理者制度の推進ということはこの数年で進めております。ルミエールホールは、中塚荘と併せて長らく指定管理者による管理、運営を行い、事業が充実し、活性化している現象があります。3年前にも市民プラザで導入して活性化に至っております。これらをふまえて、文化会館、公民館、市民プラザと併せて指定管理者を募集いたしまして、4月より3館一括での指定管理者の運営がスタートします。指定管理者はアクティオという事業者に決定いたしまして、大阪狭山市などで全国に展開している実績のある会社だということで、これからの事業展開と施設の活性化を期待しているところです。

ソフト事業では、それぞれの施設で指定管理者が自主事業として行われているものが増えてきたということと、一方では、第九コンサートのような実行委員会形式のプロジェクトがだんだん増えてきたことから、門真市でも公益活動事業補助金が平成22年度に作られました。市民の皆さんでやりたいことがあれば、これに応募して、認められれば最大50万円までの補助が受けられるという資金的な援助も確立されてきましたので、市民活動への支援も充実してきているのではないかと考えています。

【朝倉会長】

この広域活動事業補助金の実績はどれくらいあるのですか。

【事務局】

他部署の所管なので詳しくはないのですが、年間で8～10程度の団体が審査を受け、認定されています。その中には、福祉やスポーツなど色々なジャンルがあるのですが、文化芸術を生業としているグループも毎年1～2団体ほど見られます。

【朝倉会長】

これは文化芸術振興基金から出ているのですか。市の予算からですか。

【事務局】

市の一般会計からです。基金を取り崩しているわけではありません。

【朝倉会長】

基金は、今のところ使われていないのですか。

【事務局】

ルミエールホールで大きな修繕を行った時に、一般予算が不足するために取り崩したことがあります。また、現在、第九コンサートに交付金が交付されているのですが、これも基金を取り崩すことを考えていましたが、幸いにも国の交付金がつきまして、そちらの方を利用できたため、取り崩しはありませんでした。

【朝倉会長】

ルミエールホールもずいぶん古いのですが、この基金を取り崩して大規模改修しなければいけない予定はあるのですか。

【事務局】

27 年度は、既存の施設や設備等の現状把握をしまして、それを踏まえて 28 年度に設計、29 年度より実施という予定です。

【朝倉会長】

市の予算としてやられるのですか。

【事務局】

どのように充当していくかは、財政部門との話し合いがあるのですが、市民の文化芸術活動の拠点として、安心してお使いいただけることを考えております。

【朝倉会長】

できるだけ市民のニーズに合ったもので使いやすいものとなるよう調査していただければと思います。アートルীগは最近どうですか。

【事務局】

アートルীগの動向につきましては、門真の第九実行委員会に大半の委員が参加されまして、こちらでかなりの頻度の会議をされていたという背景があり、アートルীগ独自の活動は、今はされていないと聞いています。

【朝倉会長】

市民意識調査ですが、ぜひ他市と比較されてもおもしろいと思います。

【事務局】

念頭にありましたのは、基本方針を策定した時に使用した質問項目をもう一度尋ねて、

この 10 年間の変化を見るということを考えておりましたが、他市と比較して地域差を出すことも、これから検討していきます。

【朝倉会長】

門真市は流動が激しいため、意識調査をやるたびに変わるので難しいかもしれませんが、大きなマンションができればだんだん定着するかもしれませんし、そういう方に文化や歴史についても門真に来てよかったと思っていただければいいなと思います。

【朝倉会長】

31 年度の基本方針の見直しについて、もう少し私たちの役割が鮮明になるように具体的な説明が可能であれば、お話していただければませんか。

【事務局】

これまで、年 1 回の会議で事例調査や事業報告を行ってまいりましたが、28 年度予算においては年 2 回の開催の予算が認められています。そのため、年 2 回、具体的には 7 月、1 月などに開催をしていきたいと思っています。例えば、1 月は 1 年間の事業報告やこれまでの職員の調査研究を伝えたり、7 月であれば、先ほどもお話に出ました他市との合同研修や勉強できる機会などを考えているところです。それを 29 年度までと考えておりますが、皆様の任期は 28 年度で一旦終わりますので、その後のことにつきましては、今後、また相談させていただければと思っています。次に、29、30 年度の 2 年間の任期で委員を委嘱します。30、31 年度は、途中任期が切れてしましますが、この辺りはできるかぎり同じ委員にお願いできればと思っておりますし、これはまだ調整していないのですが、5 人という委員では会議の成立自体も難しいところがありますので、今後増員を検討したいと考えています。

【朝倉会長】

我々の 28 年度の任務としては、できるだけ色々な事例について勉強し、次に繋げていくことですね。指定管理者のアクティオが今後どのように管理、運営していくのか知りたいのですが。

【事務局】

次の会議の時には、ある程度運営した後になりますので、こういう状況ですと指定管理者からお話ができるかと思えます。

【朝倉会長】

動向ということでは、羽曳野市ではヤマトタケル伝説に伴って作曲家が曲をつくり、市が中心となり、合唱団やオーケストラ、神社の邦楽も加わって市民合唱団を結成し演奏会を開催しました。その後、費用の面でオーケストラをやめてピアノに変更するなど、地元

での合唱団を組織して全曲演奏を目指し、新聞でも取り上げられ、地元の文化的な財産として結び付けています。また、三重県の志摩市や名張市では、市民の合唱団が主体となり、オーケストラを呼んで続けており、高齢化で人が集まらないなどお互いに協力し合っている状況があります。市が手を引くと、維持をしていくことが大変ですが、門真市も門真市のスタイルでやればいいのかと思います。

【事務局】

今、会長がおっしゃったように、行政中心で何事もお膳立てをして行事をする時代ではなく、これから先、市民の方が中心となり、その組織がどのように新陳代謝を行っていくかが課題だと考えています。

皆さまのご意見を参考に、合同研修会など新しい取り組みを含めた審議会の開催を 28 年度は年 2 回を目指していくことを、事務局で検討させていただきたいと思います。今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

【朝倉会長】

それでは、だいたいご意見をいただいたようなので、これにて平成 27 年度門真市文化芸術振興審議会を閉会にしようと思います。ありがとうございました。